

取組みテーマ ①

## 市民参画・協働の仕組みづくり

### 「大川かたづけ隊」

未来わがまちビジョン推進事業  
(都島区)

「大川かたづけ隊」は、平成 18 年 3 月に策定された「都島区未来わがまちビジョン」の 3 つのテーマのひとつ「桜を誇るまち都島」を実現するため、都島区未来わがまちビジョン推進会議が中心となり、平成 19 年 11 月に発足しました。

毎月第 3 土曜日午前 10 時から 1 時間程度、都島区未来わがまちビジョン推進会議のメンバーをはじめ、市民や各種団体の皆さん、広報紙やホームページを見て参加される方など、毎月 30 名以上の大人から子どもまで幅広い世代の人々が自主的に集まり、ピンクのバンダナを身につけて毛馬桜之宮公園の清掃活動をしています。

活動実績は、発足から現在まで天候不良による中止もなく 27 回、参加ボランティアは延べ 800 人を超え、回収したごみの量は 12,000 リットルになりました。月 1 回の活動ですが、ボランティアの数も口コミなどで徐々に増え、定着しつつあります。



大川沿いの桜並木の美しい毛馬桜之宮公園は、散歩やジョギング、サイクリングなどを楽しむ市民で賑わう都市公園ですが、一部の心ない人たちがタバコやペットボトルのポイ捨てだけでなく、家庭の一般ごみや粗大ごみまでを不法投棄しています。特に、春から秋の気候のよい時期は、バーベキューグリルや炭が多数捨てられています。

「大川かたづけ隊」は、遊歩道をはじめ、樹木の茂みに投げ込まれたごみも収集するほか、落書きや大型のごみを発見した場合は、関係機関と連携しながら対応するなど、毛馬桜之宮公園が美しく、憩いの空間になるような活動しています。

### 中学校区単位でのまちづくり

わがまちビジョン推進事業  
(淀川区)

「淀川区未来わがまちビジョン」は、区民自らがまちの特性や魅力を活かした将来像を描き、その実現に向けた地域での活動に取り組むため、「淀川区未来わがまち会議」において 10 回のワークショップで議論のうえ策定されました。このビジョンを支援するために 2 つの取組みを進めてきました。

1 つは、区レベルで地域のさまざまな課題の解決をめざす取組みの一環として、「わがまちビジョン推進委員会」を立ち上げています。毎年 10 月に開催される「よどがわ河川敷フェスティバル」に参加し、まちの活動紹介やバリアフリー体験、また、らっきロードなどテーマごとに工夫をして出展しています。また、平成 21 年 3 月に 3 日連続で開催した「淀川ひろば」では、淀川区アクションプラン推進委員会との協働事業として実施したものであり、今年度も「河川敷フェスティバル」への協働参画や淀川区アクションプラン推進委員会主催の「Do. ほっこり市」にも「わがまちビジョン」としてブースの設置を行い、目標を共有して力を合わせて取組みを進めています。

もう 1 つは、「未来わがまち会議」の地域版(中学校区単位)の実施です。昨年度までに 5 中学校区でビジョンの策定が終了し、現在最終となる宮原中学校区においてビジョンの策定が目前に迫っています。また、策定済みの美津島中学校区や十三中学校区において、ビジョンに沿った具体的な取組み(防災ほか)が現在進められています。



## 地域ゆめ・まち会議 まちづくり活動への支援 (東淀川区)



東淀川区では、平成 18 年 3 月策定の「東淀川区未来わがまちビジョン」の実現と、区民主体によるまちづくりの推進をめざし、世代や地域団体の枠組みを超えて活動できる場として、区内全 17 地域(小学校区単位)に地域ゆめ・まち会議を設置し、各地域において自主的・主体的な身近なまちづくり活動の推進に取り組んでいます。

平成 21 年度には、新庄地域で地域の活性化・まちおこしの取組みとして、地域社会福祉協議会や小学校、小学校 PTA、連合振興町会と連携し「新庄フェスティバル」を開催し

ました。

当日は予想をはるかに上回る延べ 800 名の参加があり、地域の幅広い団体間や世代間の交流を深めました。

また、大桐地域では、大規模マンションの新たな住民の方と以前からの住民の方にそれぞれ活用してもらえよう、東淀川区健康づくり区民会議や連合振興町会と連携してまち歩きを行い、地域の情報を掲載した「おもてなしマップ」を作成しました。

このように、各地域でこれまでになかった地域団体間の連携や多くの区民の参加を図りながら、地域の皆さんのアイデアにより、地域の特性や魅力を活かした自主的・主体的な様々な取組みが広がりつつあります。

区役所では、まちづくり活動支援事業の実施や地域間の情報交流・情報提供を行い、各地域ゆめ・まち会議が持続してまちづくりに取り組めるよう支援します。



## 三区物語 共通の水辺空間を利用した三区まちづくり事業 (浪速区、西区、大正区)

浪速区・西区・大正区は、三区の結節点である大正橋、岩松橋付近で「未来わがまち会議」のメンバーを中心に、区民参加型のイベントを開催し、市民に川の再生と、川の魅力再発見の機会を設け、「住みよい明るいまちづくり」の実現をめざしています。

三区に共通する地域資源としての「川」(尻無川・木津川・道頓堀川)を利用したイベントを行うことで、三区のわがまち会議の相互交流や情報交換、三区同士の交流が図られ、新たな視点でまちづくり活動へアプローチしていく等、わがまち会議の活性化を図り、区域を越えて「川の魅力を活かしたまちづくり」活動を推進しています。

平成 19 年度から、環境をテーマに「人にやさしいまちづくり」

をめざして開催し、平成 21 年度で 3 年目となります。区民の皆様方に、環境について学習していただく機会を設け、一人でも多くの方々が理解していただけるようにこの事業を開催しているところです。

平成 19 年度から 3 年間で、イベントの来場者数が延べ 11,000 人を超え、好評を得ています。

### 【主なプログラム内容】

水上ステージコンサート・三区未来わがまち会議環境フォーラム・ドラゴンボート体験乗船・ふれあいリサイクル、模擬店など



## マンションと地域の架け橋事業 (福島区)

福島区では近年、マンションの建設が急速に増加し、新たなマンション住民となった方々と、従来から暮らす住民の方々とつながりや交流が少ないことや、マンションのなかにおいても住民間でのコミュニケーションが少ないという課題があります。

「地域福祉アクションプラン推進委員会」では、人のつながりが希薄になりがちなマンション内の交流、さらにはマンションと地域の交流を図り、地域から見守ることにより高齢者の孤独死や児童虐待を未然に防ぐなど、人と人がつながり、ともに支えあうまちづくりをめざすためには、マンション内でのコミュニティの醸成や地域との連携が必要だという意見が多く出ました。

同様に「未来わがまち会議」においても地域の連帯感の低下を懸念する声が多く出されたため、両会議が合同で「マンションと地域の架け橋事業」に取り組むこととしました。

「マンションコミュニティ支援キャンペーン」チラシ等により、事業に参加するマンションを募集し、審査により参加が決定すると、合同会議のメンバーが現地に出向き、催しの準備のお手伝いや当日の運営等をサポートしています。

平成 19 年度からこれまでにマンションでの「子育てサロン」、「クリスマス会」、「もちつき大会」、「防災訓練」、「介護保険のミニ相談会」、「夏祭り」、「落語会」、「バルーンアートなどの工作」、「お琴の演奏会」など「お茶サロン」を組み合わせたものなど延べ 32 回のコミュニティイベントを実施し、約 2,200 名の参加がありました。イベント後には、マンションの方々から「知り合いが増え、お互いあいさつするようになった。」との感想も多く聞きます。また、地域の役員さんからも「マンションの方々を知り合いになるきっかけになった。」という声もあり、地域コミュニティの輪が徐々にひろがるとともに、町会加入に結びつくなどの成果も得ています。

また、各年度の終わりには、コミュニティイベントを実施した各マンションでの世話人の方々と合同会議委員との「マンション意見交換会」を開催し、コミュニティを育むための手法・工夫・問題点の共有化を図ってきました。

さらには、広く区民の参加を呼びかけ、「マンション交流イベント」も開催し、コミュニティイベントを実施したマンション側から事例発表を行うとともに、合同会議委員と住民がコミュニティづくりのあり方についてのパネルディスカッションを実施するなど、広く区民に対して、事業の報告を行っています。(3 年で約 450 名の参加)

なお、この事業は、NHK テレビや毎日新聞でも紹介されました。



## 区民と共につくる“ほっと”なまち旭 (旭区)

旭区では、平成 18 年 3 月に策定された「旭区未来わがまちビジョン」の実現に向けた取組みとして、同年 12 月に区民の方々と結成された「旭わがまちお宝発見隊」により、平成 19・20 年度に旭区のお宝となる名物・名所等の募集が行われ、審査の結果 2 年間で 13 件の「旭区ブランド」と 88 件の「旭わがまちお宝」が認定されました。

平成 21 年度は、城北公園や芸術創造館等区内の資源を活用した事業を行ってきました。また、「旭区未来わがまちビジョン推進会議」のメンバーが中心となって、「旭区再発見事業」として「旭区ブランド」「旭わがまちお宝」等を含めた旭区の魅力を区民の方々が再認識できるとともに、区外の方々にも魅力あるウォーキングマップの作成に取り組んでいます。

「旭区ブランド」や旭区内の史跡等を紹介したウォーキング



マップの作成には、旭区の地域史づくりに参画している区民の方々の協力もいただきながら進めており、平成 22 年 3 月には「旭区未来わがまちビジョン推進会議」や「地域史づくり」のメンバー等区民の方々がガイドとなって、完成したウォーキングマップを活用してまちを案内するウォーキングイベントを開催しました。

城北公園等を活用した事業とともに、この取組みをひとつの契機として区内外から多くの人々が訪れる旭区の賑わいづくりを行い、「旭区未来わがまちビジョン」のスローガンである「“ほっと”なまち旭」の実現をめざしています。

## 多様な活動の情報拠点 CSO ネットワーク化推進事業 (住之江区)

NPOやボランティア、企業などの社会貢献を行う団体は総称してCSO(Civil Society Organization: 市民社会活組織)と呼ばれます。住之江区役所では、直接個々の団体に対してではなく、それぞれの団体が情報交流し連携していくためのネットワーク化を支援することを基本とし、さまざまな交流促進の取組みを行っています。

- ①NPO、ボランティア、企業などが一堂に集まり、区内で毎年場所を変えながら「すみのえ志民まつり」を共同開催しています。
- ②日常的には、CSO自身が運営するサイト「Web すみのえのみ」を立ち上げています。だれでも簡単に行事などをPRできる「住之江 cotocoto」のほか、学生ボランティアがまちの

名物や人物を紹介しています。

URL: <http://suminoe.org/>

- ③区役所1階にある区民情報コーナー「さんさん さざん<sup>か</sup>家」では、区内の団体がチラシやポスターで活動情報を発信したり、大型テレビを使った映像により情報提供を行うほか、このコーナーを使ったミニ講座などを開催しています。そのため登録団体も40団体になり、②の事業と連携するため、インターネットサイトを閲覧できる環境を整備しました。



## 市民協働ステーション 「ふれ愛パンジー」 (東成区)

地域活動の活性化支援やネットワーク形成支援の拠点として、平成20年3月にオープンした、ひがしなり市民協働ステーション「ふれ愛パンジー」では、さまざまな市民グループによる市民活動が行われています。ふれ愛パンジーでの市民活動にかかわる「フレンズ」の登録数は、平成20年度の47グループから平成21年度には99グループとなり、各グループによるイベントや会合が行われています。そして、そういった活動の中からグループ間のネットワークが形成され、新たな市民活動が生まれてきました。



平成21年5月に開催された「四代目桂米團治顕彰碑建立記念落語会」は、四代目桂米團治の「代書屋」が現在の区役所敷地内にあったことなどを検証した市民グループが、ふれ愛パンジーや区役所との協働事業として取り組みました。

多くの市民が参加され、東成区の歴史・文化資産を活用した事業として大きな成果をあげました。

また、平成21年7月には、芸術的分野で活躍する東成区民が中心となって「アートフェスタ東成」が開催され、音楽や書道・絵画など、芸術を身近に感じられるイベントとして多くの市民に喜ばれました。

これらのイベントにおいて、ふれ愛パンジー運営委員会、未来わがまち推進会議などのふれ愛パンジーを拠点とするグループが連携して取り組むことによって、多様なネットワークが形成されつつあり、協働による地域課題への取り組みや地域活動の活性化が着実に進んでいます。

## 専門学校との協働による 地域情報の発信 (西区)

西区未来わがまち会議では、平成16年12月に区民自らが、地域の魅力を活かした将来像を描き、その実現に向けて、地域での活動に取り組んでいくための方向性を取りまとめることとして活動をスタートし、平成18年に「西区未来わがまちビジョン」を策定しました。その後ビジョンの実現をめざして、中学生会議の開催、情報紙「西区かわら版」の発行、体験記念植樹、「三区物語」(P41 参照)への参加など西区をより良いまちにするための取り組みを行ってきました。

平成21年度には、ホスピタリティーズム専門学校大阪(通称トラジャル)の鉄道サービス科の学生と協働して、「西区の魅力豊かな地域情報を若者の視点で掘り起こしてみよう」という趣旨で地域情報紙の作成に取り組みました。地域情報紙は、区内を5つの地域に分け、地域ごとにテーマを持たせ、そこに住みもしくは働く人々の顔の見える内容となっています。

作成にあたっては、その地域独自の魅力ある特色を紹介する必要があるため、地域に詳しいわがまち会議のメンバーと学生でその地域を歩き、現地取材を行ないました。現地取材では、学生の視点から見て、興味を持った人とモノに焦点をあて、30人以上の人たちに取材を行いました。

作成された5つの地域の情報紙を発表する場として公開発表会を平成22年2月にトラジャル内のホールで開催し、学生から情報紙のテーマづけの理由やなぜこの内容を取り上げたのかを報告してもらったとともに、50人以上の来場者の投票で優秀作品を選定しました。また、優秀作品として選定された情報紙の地域を学生の案内でまち歩きを行い、25人の方々が参加され、大変好評を得ました。

なお、情報紙については区内各所や区内に転入された住民に配布しており、区民の方に30か所を超える新しい西区の魅力伝えることができました。

